

第6学年2組 総合的な学習の時間指導案

場所 6の2教室 指導者 柵木 弓

- 1 単元 「守り伝えよう 藤川の歴史」
～むらさき麦プロジェクトを立ち上げよう～ (本時 20/25)
- 2 本時の目標
 - (1) 「20年後の藤川」を予測し、藤川の良さを守り伝える必要性を考えようとする。
(主体的な態度)
 - (2) 「6の2目玉商品」を決めるために、材料・賞味期限・保存方法などから考え、話し合うことができる。
(問題解決の能力)
- 3 「自ら考え 生き生きと表現できる子」を育成するための手だて
・「藤川」を守り伝える必要性を考えるための話し合いを活性化させるために、20年後の藤川を予測し、学習シートを使って絵や文章で表現する。
- 4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (3) 把握 (2)	1 写真を見て、むらさき麦の種まきをしたときの様子を思い出す。 ・地域の人と一緒に種まきしたね。 2 本時の学習課題を把握する	・学習意欲を盛り上げるために、地域の方と一緒にむらさき麦の種まきをしたときの様子の写真を大型モニターに提示する。
展開 (30)	むらさき麦を守り広めることの必要性を考え、「6の2目玉商品」を決めよう	
整理 (10)	3 「20年後の藤川」を予測し、発表する。 ・むらさき麦は江戸時代から現在まで続いているから、20年後もきつと残っているだろう。 ・むらさき麦を使った商品が増えて全国に広まっているよ。 ・藤川の良さが広まり販ってるよ。 4 藤川の良さを守り伝える必要性を考え、話し合う。 ・先人たちが守ってきた藤川の歴史を近未来の子孫のために、自分たちが守り伝える必要があるね。 5 「6の2目玉商品」を考える。 ・目玉商品を多くの人たちに食べてもらうためには、常温で保存できて日持ちする物がいいね。 ・ビスケットは、卵や牛乳を使ってないから、卵アレルギーの人でも食べれるし、一か月经過しても、食べれたよ。 ・団子やケーキは、日持ちしないね ・ビスケットをアートプロジェクトのように全員で作って、「6の2目玉商品にする」といいよ。	・「 <u>20年後の藤川を予測してみよう</u> 」と、発問し、 <u>20年後の藤川を想像することで、今後の活動を考えるように助言する。</u> ・学習シートを配布し、藤川を大切にしている言葉を使っていたり、歴史を守り伝えていくことの大切さに気付いたりしている児童を称賛する。 ・絵で表現しても良いことを伝える。 ・「 <u>なぜ、みんなの故郷藤川を守り伝えないといけないのだろうか</u> 」と発問する。 ・ <u>藤川宿を調査したことや、むらさき麦が江戸時代から続いていること、地域の人たちの活動などから考えるように助言する。</u> ・旧米屋の店「むらさき小町」にアート作品と同様に置いてもらうために、むらさき麦を使った四つの食品から「6の2目玉商品」を決めることを伝える。 ・考える視点として、材料(水・小麦粉・砂糖・むらさき麦だけ)・賞味期限・保存方法に注目して考えるように助言する。 ・今までに作ったビスケット(乾燥剤を入れて缶に保管)を提示し、話し合いの焦点をビスケットにしぼる。 ・次時は、「むらさき麦ビスケット」の調理計画の予定を立てることを伝える。

- 5 評価
 - (1) 「20年後の藤川」を予測し、藤川の良さを守り伝える必要性について考えることができたか。
(活動4の学習シートと発言から)
 - (2) 「6の2目玉商品」を決めるために、主体的に話し合うことができたか。(活動5の発言から)